

## トップニュース

## ジェトロ、展示場インパクトと協力覚書

## CEBITに日系デジタル企業を招聘

【バンコク時事】日本貿易振興機構（ジェトロ）バンコク事務所は5日、大型展示場を運営するインパクト・エキシビション・マネジメントと、世界最大規模の国際IT見本市である「CEBIT（セビット）」のバンコク開催に向けた協力覚書に署名した。

セビットはドイツ発祥の見本市で、最先端のモノのインターネット（IoT）やデジタル技術などを展示する。タイでの開催はインパクトや、タイのデジタル経済社会省、科学技術省などが共催。ジェトロは日本でタイでの事業展開を希望するIoT、デジタル分野のスタートアップ企業を公募し、これらの企業がタイでビジネスプランを構築する際に、専門家からのアドバイスなどを提供する。セビットの開催期間中は、これらスタートアップ企業のブース出店、現地企業とのビジネスマッチング、プレゼンの実施などサポートする。

署名式に参加したジェトロバンコク事務所の三又裕生所長は、時事通信のインタビューに応じ、「IoT、デジタル分野にも複数の産業レイヤーがあり、業界もEコマース、物流、製造業など多岐にわたっている」と指摘、「タイや東南アジア諸国連合（ASEAN）にはEコマース分野などで中国企業が進出してきているが、日本の企業が得意としている分野も存在しており、進出の余地は大きい。セビットにはタイに根付いていける企業を招聘（しょうへい）したい」と抱負を語った。

セビットは今年10月18～20日にバンコク郊外インパクト・ムアントンタニ展示場で開催される。来場者数は8000人ほどになると予想している。



展示場インパクトと協力の覚書を  
交わすジェトロバンコク事務所の  
三又所長（左）＝5日、バンコク